

平成28年度全国獣医師会会長会議の開催

平成28年度全国獣医師会会長会議が、平成28年11月9日、リーガロイヤルホテル小倉「ロイヤル」において開催された。

なお、平成28年度全国獣医師会会長会議の議事概要は下記のとおり。

平成28年度全国獣医師会会長会議の議事概要

I 日時：平成28年11月9日(水) 15:00～17:00

II 場所：リーガロイヤルホテル小倉・4階
「ロイヤル」

III 出席者：

【地方獣医師会】

55 会員獣医師会長ほか

【日本獣医師会】

会長：藏内勇夫

副会長：砂原和文、村中志朗、酒井健夫

専務理事：境 政人

地区理事：高橋 徹、山内正孝、高橋三男、宮澤 宏、
玉井公宏、安食政幸、寺町光博、坂本 紘

職域理事：麻生 哲、細井戸大成、横尾 彰、
加地祥文、木村芳之

監事：柴山隆史、波岸裕光、山根 晃

顧問：北村直人

(欠席) 小松泰史、鎌田健義、栗本まさ子

IV 議事：

【説明・報告事項】

- 1 第2回 世界獣医師会-世界医師会 “One Health” に関する国際会議の開催に関する件
- 2 2016 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” の開催に関する件
- 3 獣医学術学会年次大会の開催に関する件
- 4 熊本地震支援・救護活動等に関する件
- 5 特定寄附金及び指定寄附金に関する件
- 6 公益目的事業等の変更認定に関する件
- 7 アジア地域臨床獣医師等総合研修事業に関する件
- 8 特別委員会及び部会委員会に関する件
- 9 その他

【その他の報告・連絡事項】

- 1 当面の主要会議等の開催計画に関する件
- 2 日本獣医師政治連盟の活動報告

V 会議概要：

【会長挨拶】

藏内会長から大要次の挨拶がなされた。

【藏内会長挨拶】

本日の会議は、明日から開催する世界獣医師会-世界医師会 “One Health” に関する国際会議に合わせて、北九州市小倉での開催となった。ご出席いただき厚くお礼申し上げます。

わが国では時期や地域を問わず自然災害が発生する可能性があるが、4月に熊本県を中心に大地震が発生し、8月には北海道で台風、東北で豪雨の被害があり、10月には鳥取県でマグニチュード6の地震が発生した。この1年は災害に見舞われた年であり、被災された皆さま、地方獣医師会関係者に心からお見舞いを申し上げます。

本会では、特に熊本地震の際は発災の日から救援緊急対策本部を設置し対応してきた。これまでの活動経緯は日本獣医師会雑誌、メールマガジン、ホームページ等で報告してきたが、初期の支援対応を終え、今後、中長期的な支援に移行しており、地方獣医師会のご支援ご協力に対し厚くお礼申し上げます。ご報告のとおり今回、九州災害時動物救援センターを熊本地震ペット救援センターとして前倒して開設したが、これは地域における動物救援施設のモデルとなるものである。本センターの設置に関しては財務大臣から、法人税について全額損金算入される指定寄附金とともに、所得税についても所得控除を受ける特定寄附金も認定された。これらの制度を活用し本センターの整備に努めたいので、皆様のご支援ご協力をお願いしたい。

8月から10月にかけて開催された地区獣医師大会、獣医学術地区学会には、本会執行部役員が手分けをして参加させていただいたが、温かく迎えていただくともに、開催担当地方獣医師会、地区連合獣医師会の尽力により盛会で実り多い内容となったことを改めてお礼申し上げます。

明日から One Health の国際会議が開催されるが、現在約31カ国600名を越す参加が見込まれている。この会議を通じて、アジアはもとより世界に対して日本獣医師会と日本医師会の連携活動を広くアピールし、今後の活動の糧となるよう努力していきたい。なお、明日は秋篠宮殿下、同妃殿下が臨席されるが、本日の夕刻に代表者で意見交換の懇親会を開催する予定である。

また、12日は、初めての地方における動物感謝デーを

開催するが、北九州市との共催、福岡県の支援の下、大変有意義な内容を計画しており、地方獣医師会長、関係者におかれては、最後までご協力を心からお願い申し上げます。

さらに13日は有志による熊本地震ペット救援センターの視察も予定されている。参加される方々は時間に制約があるが十分に視察いただきたい。

昨日、大阪市獣医師会と大阪府医師会が学術協定を締結した旨報告いただいたが、本締結をもって47都道府県において55地方獣医師会がすべて医師会との連携のネットワークを構築したことになる。これも地方獣医師会の皆さまのご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

なお、われわれの長年の課題である獣医師の処遇改善について、福岡県では人事委員会から中間答申が出され、来年までに専門職としての給与表が策定されることとなった。現在、医療職(一)にするか、獣医職の俸給表にするか、家畜衛生職員会、全国公衆衛生獣医師協議会に対し、中央団体とも協議され、方針の提案を依頼しているが、獣医学教育の進展にも繋がるものであり、福岡県獣医師会の草場会長をはじめ、関係者のご尽力に対し感謝申し上げます。

今日から4日間にわたり開催される会議等は、今後の日本獣医師会の将来にかかわるものであり、最後までのご参加とご協力をお願い申し上げます。また、高橋議長、宮澤副議長に本会議の運営をお願い申し上げます。会長の挨拶としたい。

【顧問挨拶】

北村顧問から大要次のとおりの挨拶が行われた。

【北村顧問挨拶】

藏内会長をはじめ地方獣医師会会長、役職員及び構成獣医師におかれては、健全かつ健康で今日を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。特に地方獣医師会長におかれては、心身ともに健康で会員構成獣医師を牽引されていることに感謝を申し上げます。

われわれ獣医師が新しいOne Healthという理念の下、世界に対し貢献すべき姿を示す4日間になると考えている。今日出席の皆様の大きな励みとなるようお力添えをお願い申し上げます。

また、7月の参議院選挙では地方獣医師会における推薦候補者の当選にご尽力をいただき、日本獣医師政治連盟の委員長として感謝を申し上げます。

われわれは将来、30年、40年、50年先の獣医師会の在り方、獣医療の方向性、獣医師の社会的立場等について、今後の獣医界を背負う若い世代のために環境を整備し、引き継ぐ必要があります。現在、その意味において大変重要な局面を迎えていると感じている。

そして、本日の会長会議が実りある会議となることを

心から祈念して顧問からの挨拶としたい。

【議長・副議長挨拶】

高橋三男議長、宮澤 宏副議長の就任にあたり大要次のとおり挨拶がなされた。

【高橋議長挨拶】

宮澤副議長とともに厳正で公正なる議事運営をお誓い申し上げます。

本日は、この4日間の初日、全国獣医師会会長会議が開催されるが、前年度の1年間を回顧、反省しながら、次年度の事業、予算を審議する総会とは異なり、地方獣医師会会長と藏内会長をはじめとする執行部、さらに15名の事務局職員が一体感を原動力として、日本獣医師会の事業運営等について一つの結論を示すことが本会議の主旨であると考えます。

また、藏内会長の意向により地方の意見を日本獣医師会がしっかりと受け止め、一方で、日本獣医師会の方向性を地方の方々が広く理解し共有する機会となるよう、本会長会議に常設議長を設ける経緯となった。

明日からの国際会議は、地球上における「生命」、まさに「命」という一文字を日本医師会とともに協同で守る、このような取組みを日本から世界に発信する新たな第一歩を踏み出す大きな機会と考えます。

藏内会長はじめ役職員、そして全国獣医師会会長の力強いご支援により皆さまのご意見をいただきながら、議長として限られた時間で効率的有効的な議事進行に努めることをお誓い申し上げます。議長就任の挨拶に代えさせていただきます。

【宮澤副議長挨拶】

本日の会議が円滑に進行できるよう議長を補佐し、皆さま方のご協力を頂戴し、本会議が円満に終了するようお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

【説明・報告事項】

1 第2回 世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議の開催に関する件

境専務理事から次のとおり報告された。

明日からの国際会議は、約31カ国600人(日本人500人)の参加を得て開催する予定である。なお、プログラムの変更点等として、①初日、開会式では、主催者挨拶を予定していたレネ・カールソン世界獣医師会会長が体調不良のため、ジョンソン・チャン次期会長に変更された、②関係省庁の大臣は国会会期中のため、開会式を欠席される、③2日目の午後の会議の結論において、予定していたカールソン会長に代わりジープ世界獣医師会政策担当官が講演を行う(最終的にチャン次期会長に変更された)。さらに本会議終了後、本会会長・日本医師会会長招待レセプションが開催されるが、途中、両会

長は秋篠宮同妃両殿下との夕食会に出席するため中座される。

2 2016 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” の開催に関する件

境専務理事から次のとおり説明された。

本年度の動物感謝デーについては、12日に西日本総合展示場及びあさの汐風公園において北九州市との共催、福岡県等の後援のもと、協賛・後援企業・団体・獣医学系大学等によるステージ企画及びブース展示・物品頒布企画、一日獣医師体験、獣医師の役割紹介ステージ、獣医師による家庭動物の飼育相談、地方獣医師会による展示等を内容として開催予定である。地方獣医師会からの協賛、ブース出展に対しお礼申し上げる。

3 獣医学術学会年次大会の開催に関する件

境専務理事から次のとおり説明された。

平成28年度については、平成29年2月24日(金)～26日(日)、金沢市において石川県獣医師会共催(石川県獣医師会運営委託・中部獣医師会連合会協力開催形式)により、平成29年度は、平成30年2月10日(土)～12日(祝)、別府市において、大分県獣医師会共催(大分県獣医師会運営委託・九州地区獣医師会連合会協力開催形式)により、平成30年度は、平成31年2月8日(金)～10日(日)(予定)、新横浜プリンスホテル(予定)において神奈川県獣医師会共催(神奈川県獣医師会運営委託・関東地区獣医師会連合会協力開催形式)により開催する予定である。本年度の年次大会への参加(事前登録)の推進をお願いする。

続いて、石川県獣医師会八木会長から次のとおり説明された。

本年度の年次大会の開催まで残り100日となり、担当役員、事務局では、運営の調整等に尽力している。現在、関係者への電話等により参加登録人数の確保に努めているが、登録人数は昨日付けで160名に止まっている。開催した地方獣医師会によれば事前登録締切間際に登録が殺到すると仄聞しているが、今回は国立大学の入試と重なったため、金沢市内の宿泊予約が込み合うとの情報もあり、早期の事前登録と宿泊予約をお勧めする。冬の金沢は見どころが満載であり、ご夫妻で参加いただくようエクスカッションも用意している。石川県では万全の準備で皆さまをお待ちしており、地方獣医師会長から関係者への周知につき特段のご配慮をお願いしたい。

4 熊本地震支援・救護活動等に関する件

境専務理事から次のとおり説明された。

①10月19日付けの熊本地震義援金の応募・支払状況として、募金総額の38,760,899円(地方会分31,611,147

円)のうち、支払額33,889,840円(診療券払戻し分17,155,202円)で、残額は7,149,752円である。

②本会での熊本地震被災対応状況として、4月16日に緊急対策本部を設置以降、本部会議を逐次開催し、被災地への人的支援、被災動物への獣医療の提供、義援金の募集等に努めた。さらに③10月17日に環境省において、環境大臣から本会あてに熊本地震の被災地域支援活動に対する感謝状が贈呈された。

5 特定寄附金及び指定寄附金に関する件

境専務理事から次のとおり説明された。

9月12日付けで財務大臣へ特定寄附金及び指定寄附金の申請を実施した。目的は、「熊本地震ペット救援センター」の施設整備のための資金の募集であり、226,800,000円を目標額として、指定を受けた9月26日より、平成29年3月25日までの半年間が募集期間とされた。さらに10月11日付けで地方獣医師会長あて指定寄附金の募集について協力を依頼した。

藏内会長から次のとおり補足説明がなされた。

優遇税制措置の認可を受けたので、地方獣医師会長から高額納税者をご紹介いただきたい。そのような方々は、税金を払うより寄附した方が良いと判断するので、是非ともご紹介いただきたい。

6 公益目的事業等の変更認定に関する件

境専務理事から次のとおり説明された。

4月22日に内閣府へ①従前の公益目的事業(1)及び(2)の統合及び②「獣医学術講習会・研修会事業における海外の獣医師を対象とした研修事業」の追加について変更申請し、8月29日付けで認定された。一方、「熊本地震ペット救援センター」の施設整備のための、財務省の指定寄附金の認定申請を進める中で、環境省と内閣府の公益認定等委員会の副申請が必要となったため、急遽、8月末日に「熊本地震動物救援施設整備事業」の追加について変更申請を行うとともに、9月7日に開催された認定等委員会への諮問及び即日答申を依頼し、9月12日付けで認定された。

このことについて次の質疑がなされた。

①「熊本地震動物救援施設整備事業」については、熊本地震に特化した内容であり、災害を限定せずに「被災動物」等とすれば、今後の災害時にも対応できるものとする。

②理事会開催前の8月31日に申請、9月12日に認定を受けたが、その後の理事会で否認された場合を想定されたのか。

これに対して、境専務理事から次のとおり回答がなされた。

①については当初、災害一般を対象と考えたが、認定等

委員会から熊本地震に特化した方が早く許可できる旨助言をいただき、「熊本地震」とした経緯がある。今後「一般災害」として改めて申請する予定である。

- ②については、本件は、前年度3月の理事会、6月の総会、理事会で承認を得ていた。なお、「熊本地震動物救援施設整備事業の追加」に当たって、公益認定等委員会から、変更申請書に添付する提出書類に本事業を含めた新たな収支予算書の提出が求められたため、やむを得ず理事会で事後承認を得たところである。

7 アジア地域臨床獣医師等総合研修事業に関する件

境専務理事から次のとおり説明された。

JRA助成事業としてアジア地域の獣医師向けの総合研修事業を再開する。平成28年度を準備期間とし、29、30年度でFAVA加盟国20カ国から20人の研修生を受け入れる予定である。受入れ希望のあった12大学の担当教員からなる推進委員会を設置し、現在、FAVAの加盟国へ研修生の推薦を依頼しており、1月の委員会で研修生を決定し、4月から研修を開始する予定である。一方、第2回One Healthに関する国際会議についても本事業から予算を得ている。なお、31年度以降も事業継続の申請を予定している。

8 特別委員会及び部会委員会に関する件

境専務理事から、特別委員会及び部会委員会の検討課題、開催状況等が説明された。

これについて次の質疑がなされた。

- ①今後、少子高齢化の中で伴侶動物が減少するとともに、産業動物もさらなる減少が予測されており、獣医界にとって大きな問題と考える。挨拶にあったように、30、40、50年ならずとも、10年、20年先の獣医界の姿を委員会においてシミュレーションいただければ、先を見据えた取組みを推進できる。
- ②人と動物の共通感染症対策については、医師会との連携が重要である。特に狂犬病予防法の公布当時は疾病が多発しており、犬が物と扱われていた時代であった。しかし、犬が家族の一員となった今日、疾病が発生した際、新たなトラブルの発生も予想され、国での対策が急務と考える。
- ①については、藏内会長から、大変重要な課題であるが、目まぐるしく変化する社会情勢の中で、獣医師の需給を含めた30年先の予測は困難を極めるが、5、10年先はシミュレートする必要がある、検討すべき場について調整したいとの回答がなされた。
- ②については、境専務理事から次のとおり回答がなされた。
- 医師会と共催で開催した第1回の連携シンポジウムでは、狂犬病をテーマとしたが、今後、獣医師会だけ

でなく、医師会からも狂犬病の重要性を周知することが、国民の理解向上につながる。さらにマイクロチップの装着の義務化により、犬の登録業務の簡素化等を図り、登録頭数を明確にすることにも活用できる。

【その他の報告・連絡事項】

1 当面の主要会議等の開催計画に関する件

境専務理事から、当面の主要会議等の開催計画について説明がなされた。

2 日本獣医師政治連盟の活動報告

北村委員長から、大要次のとおりの報告が行われた。

国家戦略特区についてきわめて重大な局面を迎えていると考えており、皆さまと情報を共有したい。ご承知のとおり本会総会において、国際水準を充足するためには、獣医学系大学の新設ではなく、既存の大学での教育改善が急務として決議いただいております。これまで、これを踏まえて対応してきた。

本日中に諮問会議が開かれ、結論が出されるとの情報を得たが、本会議資料も担当大臣が作成しているのか、官邸なのか把握していない。諮問会議の委員の中には、前石破担当大臣が示した4条件に対し、政治的な思惑から合致していると判断している者もいる。また、現在の16大学のうち、私立大学5校は、教員、施設整備の充実等、OIE基準に沿うよう努力しているが、国立10大学ではその努力が見えないと考えている委員もいる。

過去に藏内会長が山口大学、宮崎大学、鹿児島大学を九州大学に統合することを試みたが、実現に至らなかった。今治市で新設する大学の施設整備等に、愛媛県、今治市が数十億円を、当該学校法人が数100億円を負担するという情報もあり、これによりOIE基準を満たしていると主張されると、文部科学省も対応せざるを得なくなる。

今後、統合がなければ教員、施設の充実は望むべくもなく、国家戦略特区の超法規的な主導により推進されると、今の獣医師会、政治連盟で抵抗する有効な手立てを講ずることは困難である。今治市が認可されると、その他の大学も次々と認められることになる。このため、われわれは被害を最小限に止め、拡散しないよう努める必要がある。さらに今後の獣医界のシミュレーションは困難を極めるが、公表された正確な情報に基づいて、平成30年以降についての獣医療提供体制の10カ年計画とともに、10年後の獣医師会、さらに獣医療の方向を見据えた上で、条件闘争を考える必要がある。

本日は、詳細な情報をお伝えできず申し訳ないが、官邸では強力な政治力をもって新設認可を進めている現状を理解いただきたい。